

令和3年3月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

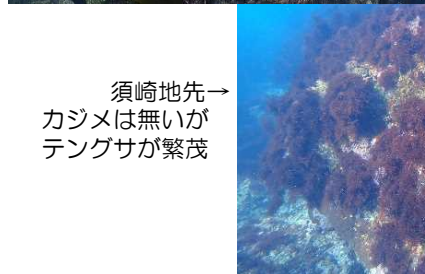
## 須崎～外浦のカジメ磯焼け調査

2017年8月に発生した黒潮大蛇行は、現在も継続中です。伊豆半島沿岸の藻場は、黒潮大蛇行時に高水温や魚類の食害に晒されることでカジメの磯焼けが発生することが知られているため、当场ではカジメ群落の状況を調査しています。2月19日に下田市須崎地先と外浦地先で潜水調査を行いました。須崎地先では昨年の夏時点で磯焼け発生の方が多かったため、漁業者から聞き取ったカジメが残っていた場所にて調査を行いました。その結果、外浦地先ではカジメ群落が確認され、磯焼けは発生していませんでした。一方、須崎地先ではカジメを確認することが出来ませんでした。調査当日は、時化で全ての地点を潜れなかったため、再度調査を予定しています。

解説：磯焼けは海藻群落が急速に衰退・消失する現象で、海藻を餌とするアワビなどに影響する。



←外浦地先  
カジメ群落



須崎地先→  
カジメは無いが  
テングサが繁茂

## 一都三県キンメダイ資源管理協議会

2月19日に一都三県(東京都、千葉県、神奈川県、静岡県)キンメダイ資源管理実践推進漁業者協議会が開催されました。本来は、今年の担当の東京都で開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響でWEB開催となり、静岡県の関係者は静岡市内に集まって参加しました。現在、キンメダイ資源は低位で減少傾向とされています。漁業者は各地先で積極的に資源管理に取り組んでいますが、水産庁はさらに漁獲量の低減を提案しています。協議会では、現在のキンメダイの資源評価とこれからの資源管理について意見交換が行われました。



↑WEB会議の様子

## ヒジキの生育状況調査

近年、伊豆半島の各地の磯でヒジキの生育不良が問題となっており、生育状況の調査を行っています。継続的にヒジキの長さを調べた結果、収穫時期(3～4月)になっても10～20cmと非常に短い漁場がある一方で、場所によっては50cmと長く生長する漁場も明らかになりました。また、ヒジキが短い漁場では先端に食痕が散見され、漁場によっては魚類の食害が生長不良要因の可能性があります。今後も、ヒジキの収穫時期まで生育状況調査を継続していきます。



↑良く伸びたヒジキ(左)と短いヒジキ(右)

**3月の予定** ●テングサ作柄調査を行います ●18日に静岡県キンメダイ資源管理型漁業実践推進漁業者協議会が静岡市で開催されます ●19日に下田市の「水産・海洋学講座」で講演をします ●19日に多面的機能発揮対策事業活動実績報告会が静岡市で開催されます ●キンメダイの親魚採捕を行います

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：[suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp) ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。